



宇宙科学・探査分野 工程表取り組み状況について

平成27(2015)年10月13日

国立研究開発法人

宇宙航空研究開発機構

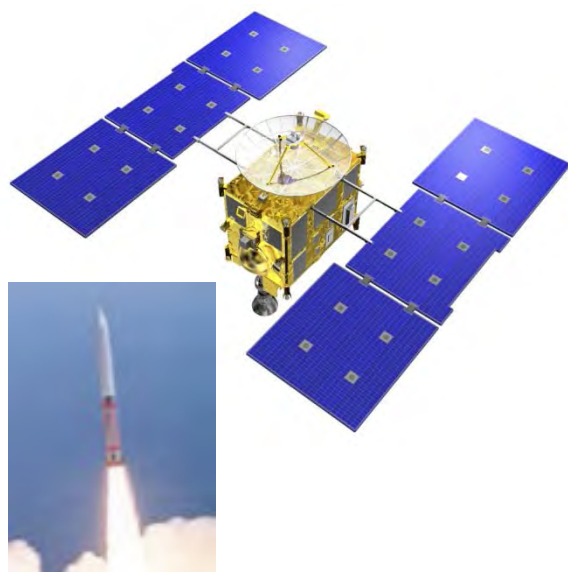
宇宙科学研究所

はじめに

- 「宇宙科学・探査ロードマップ」について、宇宙科学・探査部会（平成25年9月19日）にてJAXA宇宙科学研究所（以下、「宇宙研」）から報告した。
- 同部会での議論は、新宇宙基本計画及び工程表（平成27年1月9日 宇宙開発戦略本部決定）に反映された。
- これらをベースに、本小委員会（平成27年4月20日、同6月9日）において、開発中プロジェクトの状況、「公募型小型」及び「戦略的中型」の選定状況と、太陽系探査科学のプログラム化の戦略策定の考え方等について報告を行っているが、その後の進捗を報告する。

Ⅲ. 今後の宇宙科学・探査プロジェクトの推進方策

宇宙科学における宇宙理工学各分野の今後のプロジェクト実行の戦略に基づき、厳しいリソース制約の中、従来目指してきた大型化の実現よりも、中型以下の規模をメインストリームとし、中型(H2クラスで打ち上げを想定)、小型(イプシロンで打ち上げを想定)、および多様な小規模プロジェクトの3クラスのカテゴリーに分けて実施する。



2000年代前半までの
典型的な科学衛星ミッション
M-Vロケットによる打ち上げ

戦略的に実施する中型計画(300億程度)

世界第一級の成果創出を目指し、各分野のフラッグシップ的なミッションを日本がリーダーとして実施する。多様な形態の国際協力を前提。

公募型小型計画(100-150億規模)

高頻度な成果創出を目指し、機動的かつ挑戦的に実施する小型ミッション。地球周回/深宇宙ミッションを機動的に実施。現行小型衛星計画から得られた経験等を活かし、衛星・探査機の高度化による軽量高機能化に取り組む。等価な規模の多様なプロジェクトも含む。

多様な小規模プロジェクト群(10億/年程度)

海外ミッションへのジュニアパートナーとしての参加、海外も含めた衛星・小型ロケット・気球など飛翔機会への参加、小型飛翔機会の創出、ISSを利用した科学研究など、多様な機会を最大に活用し成果創出を最大化する。

